

ツマキチョウ

(チョウ目・シロチョウ科)

「昆虫と自然の館」には大きな蝶の模型が展示してあります。前翅の端が尖ってその部分が濃い黄色、後翅裏面に黄緑色の唐草模様がある白い蝶です。アブラナ科植物の花で吸蜜している場面を模したこの模型がツマキチョウです。その名の通り端が黄色い蝶ですが、黄色いのは雄だけ、雌のこの部分は白色です◆ツマキチョウ属は、北半球に広く分布し14種が知られています。いずれも生涯の大部分を蛹で過ごし、春に成虫が出現するグループです。日本には、クモツマキチョウと本種の2



ツマキチョウの模型
布して
す。いま
アラスカ
に広く
分布す



ツマキチョウ雌(左)・雄(右)

る前種は、日本では限られた分布域をもつ珍蝶です。それに対し、逆に東アジア固有種で世界的には珍しい本種は、日本では沖縄県を除く46都道府県で普通に見ることが出来ます◆そんなツマキチョウですが、一般の人の目に触れる機会は意外に少ないようです。それは、年1回、春にだけ現れることと、同時に見られるモンシロチョウなどは、飛翔時には見分けにくいからです。しかし、少し慣れれば、本種は、より小型で翅を小刻みに震わせて直線的に飛ぶので、野外での区別が可能です◆桜の季節の晴れた風のない日に、この蝶を探してみましよう。黄色の翅端部を誇らしげに見せて翅を半開して吸蜜する姿を目にすることが出来るかもしれません。

(中村英夫)

おごせ アートミュージアム 特別編

石井俊也さんの作品が写真展にて金賞を受賞



平成24年度肢体不自由児・者のデジタル写真展において、大谷区在住の石井俊也さん(18歳)の撮影した写真が、見事金賞を受賞しました。同写真展は、全国の肢体不自由児・者を対象に毎年開催されている写真展で、今年も全国から1,052点もの作品が寄せられました。

受賞作品は、車椅子に乗って生活している石井さんならではの視点が輝く作品です。

「作品は学校の社会体験学習の際に撮影したものです。川越の菓子屋横町の店先に、釣り下げられて輝くものがあり、よく見るとそれらは飴でした。題名の『飴の雨』は車椅子から見上げた飴が雨粒のように見えたからです。」

そんな石井さんのこれからの抱負とは。

「これからも良い写真を撮りたいです。僕には障害がありますが、それは普通の人には撮れないインパクトのある写真が撮れるということ。良い写真を撮って作品展にまた応募したいです。」

石井さんならではの新鮮な視点の作品は、これからも私たちを驚かせてくれることでしょう。



作品名：飴の雨

3月の納税

町 県 民 税 随時期
国民健康保険税 随時期
(4月1日まで)

人口と世帯

2月1日現在
()は前月比

総人口	12,596人(-16)
男性	6,284人(-5)
女性	6,312人(-11)
世帯数	4,917世帯(-5)

あとがき

3町合同特集『町を守る！暮らしを守る！』、いかがだったでしょうか。読者の皆様に飽きられぬよう何か新しいことをせねば！ということを取り組んだ企画ですが、何しろ初めての試みであり、編集作業は苦勞の連続でした。皆様からの感想などお寄せいただければ幸いです。また、今後も新しい企画を行えたら、と考えております。さて、3月を迎え越生梅林は見頃を迎えてあります。今年の梅まつりには、屋台村が出現し、新たな装いを感じていただけると思っています。ぜひ一度足をお運んでください。

(月)